

議案外質問(9月15日) 柴田 民雄 議員

市みずから核兵器廃絶の世論啓発に踏み出せ

7月7日に国連で核兵器禁止条約が採択されたことをうけ、柴田たみお議員は河村市長に対し、核兵器廃絶にむけたとりくみの提案を行いました。

河村市長はヒバクシャ国際署名に協力を



柴田議員は、同条約に背を向けている日本政府の姿勢を厳しく批判し、河村市長の見解をたどしました。さらに、「条約採択に大きな役割を發揮し、平和首長会議（河村市長も加盟）が賛同・協力を呼び掛けている『ヒバクシャ国際署名』に、

河村市長が署名することで、日本政府の態度を変えさせ、核兵器禁止条約に批准させる大きな力になる」と力説。河村市長に対し、みずから署名するよう迫りました。

河村市長は「条約不参加については、アメリカと話し合うことが一番。署名は、よう考えてはみる」と答弁。

柴田議員は、8月10日の平和首長会議総会で採択された長崎アピールに触れ、「核保有国と核の傘の下にいる国々の政府に、条約への批准を強

Graphic titled '被爆者は核兵器廃絶を心から求めます' (The victims of atomic bombing sincerely demand the abolition of nuclear weapons). It features a rainbow logo and text explaining the importance of the Hibakusha International Signature and the need for government support.

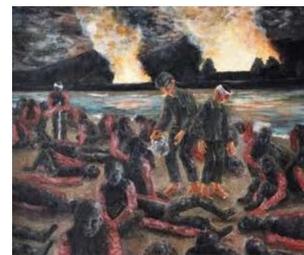
くはたらきかけていくと明言しているのだから、河村市長もその一員として頑張るべきだ」と述べました。

高校生が描いた原爆絵画

柴田議員は、広島市内の高校生たちが10年前から制作している、原爆絵画のとりくみを取り上げました。(右と下の絵を参照)



「被爆者からの繰り返しの聞き取りや描き直し作業を通じて、2度と繰り返さないために自分たちに何ができるのかと(次世代が)模索するきっかけになっている」と強調。「市の事業として絵画展を開き、核兵器廃絶の世論啓発に踏み出すべきだ」と求めました。



河村市長は「日本史も世界史も、勉強すればするほど、一言でいえば悲しい戦争の歴史。自分たち(人類)がたどってきた道を、高校生が描くということは大変ええことだ」と語りました。

柴田議員は「良いことだと思うのならぜひ前へ進め、署名にも前向きに取り組んでほしい」と重ねて求めました。

質問に先立ち、柴田議員は、北朝鮮のミサイル発射と核実験強行について、「世界の核兵器廃絶への流れに逆らうものだ」と強く抗議しました。

国民健康保険

高すぎる保険料の負担軽減を

来年度から国民健康保険は都道府県が財政運営を行うことになり、市町村は都道府県に納付金を支払う方式にかわります。柴田議員は、名古屋市が愛知県に支払う保険料額がどうなるのか質問しました。

答弁で健康福祉局長は、最新の試算では34~45億円減少する見込みだと示したうえで、「保険料水準に大きな変化がないよう、努めたい」と述べました。

保険料引き下げは十分可能

名古屋市の一人当たりの平均保険料は2015、16各年

度と連続して負担が軽減されました。しかし今年度は約4000円引き上げられ、過去最高水準の91,688円に達しています(予算ベース)。

柴田議員は、都道府県単位化に伴う国からの財政支援1700億円のうち、試算に反映されているのは1200億円だと指摘。「国保は市民全体の問題。都道府県単位化の本来の趣旨に沿って、国からの財政支援を保険料負担の引き下げに回せば、まだまだ引き下げは可能だ」と、負担軽減を強く求めました。